

浮雲の空に
 轉迷曉月
 隔左人
 高山
 飛鳥
 橋
 秋
 河
 雨
 山
 居士

特別展

長尾雨山とその交友

—書画文墨趣味ネットワークの人々



「長尾雨山肖像写真」(長尾尚正編「元問答字簿」,大妻学院蔵)

大妻女子大学博物館



真露韻「与古尚談真韻原作(複製)」 大妻女子大学博物館蔵(美濃輝氏提供、松村茂樹氏寄贈)



長尾雨山「与岸田太郎尺牘」 大妻女子大学博物館蔵(松村茂樹氏寄贈)

長尾雨山「草書七絶書軸」
大妻女子大学博物館蔵(安見昌幸氏寄贈)

28 後園秋色四軸

小室孝太郎 大正三年(一九一三)
編二〇八 編六四 本紙 編三二五 編三三五
小室孝太郎(一八四九—一九四五)名は貞徳、熊本県大正郡林の人、日本画家。南画を田鶴仙、詩文を山下雪村、書法を大正一〇年設立の本南園院に加入し、編輯の南山と交流した。この作は、樹下に飛鳥を配し、唐の題詞、題詞の南山と交流しているが、自題の南書に、後日秋園とあり、自筆の情景を寓してあり、二碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

29 陸階智果書

標原龍溪 明治四四年(一九〇八)
編二〇六 編六五
標原龍溪(一八五五—一九三三)名は善徳、泉州泉州府の人、米屋。通漢語、漢文を田鶴仙、詩文を山下雪村、書法を大正一〇年設立の本南園院に加入し、編輯の南山と交流した。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

30 行草書自作詩軸

荒木真樹 昭和四年(一九二九)
編二〇九 編六五
荒木真樹(一八六六—一九四二)名は真樹、医学者。群馬の人、京都帝國大学医学部、宇野病院院長などを歴任。南画、内務省書道大賞を受賞。行草書、詩文を田鶴仙、詩文を山下雪村、書法を大正一〇年設立の本南園院に加入し、編輯の南山と交流した。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

31 行草書自作詩軸

廣島秀典 明治四四年(一九〇八)
編二〇四 編六五
廣島秀典(一八六六—一九四五)名は秀典、字は台吉、佐賀の人、政治家。書道が外務省の時、マリア・ルース事件を号して、日本に帰る。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

32 行書論画一則扇面

内藤龍溪 明治四四年(一九〇八)
編二〇四 編六五
内藤龍溪(一八六六—一九四五)名は龍溪、字は台吉、佐賀の人、政治家。書道が外務省の時、マリア・ルース事件を号して、日本に帰る。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

33 松茂山莊記草軸

西村六三 明治三二年(一九〇七)
編二〇八 編六五
西村六三(一八六六—一九四五)名は龍溪、字は台吉、佐賀の人、政治家。書道が外務省の時、マリア・ルース事件を号して、日本に帰る。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

34 行草書自作詩軸

松茂山莊記草軸
西村六三(一八六六—一九四五)名は龍溪、字は台吉、佐賀の人、政治家。書道が外務省の時、マリア・ルース事件を号して、日本に帰る。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

35 一亭近画

高島隆徳 明治三二年(一九〇七)
編二〇八 編六五
高島隆徳(一八六六—一九四五)名は隆徳、字は台吉、佐賀の人、政治家。書道が外務省の時、マリア・ルース事件を号して、日本に帰る。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

36 茶の本

The Book of Tea A Japanese Harmony of Art Culture & The Simple Life
岡倉文天(Oakakura Kakuzo) 一九〇六年
編二〇九 編六五
岡倉文天(一八六六—一九四五)名は文天、茶の博士。東京の人、東京帝國大学文学部、東京帝國大学文学部教授などを歴任。南画、内務省書道大賞を受賞。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

37 桃華露古鏡図録

富岡潤吉 大正三年(一九一四)
編二〇九 編六五
富岡潤吉(一八六六—一九四五)名は潤吉、京都の人、高野宮の長男。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

38 大妻女子大図書

天心 明治三二年(一九〇七)
編二〇九 編六五
天心(一八六六—一九四五)名は天心、茶の博士。東京の人、東京帝國大学文学部、東京帝國大学文学部教授などを歴任。南画、内務省書道大賞を受賞。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

39 木堂翰墨談

大妻女子大図書
天心(一八六六—一九四五)名は天心、茶の博士。東京の人、東京帝國大学文学部、東京帝國大学文学部教授などを歴任。南画、内務省書道大賞を受賞。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

40 竹垞遺集

阿波野竹垞(一八六六—一九四五)名は竹垞、字は台吉、佐賀の人、政治家。書道が外務省の時、マリア・ルース事件を号して、日本に帰る。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

41 天機集

阿波野竹垞(一八六六—一九四五)名は竹垞、字は台吉、佐賀の人、政治家。書道が外務省の時、マリア・ルース事件を号して、日本に帰る。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

42 双聲齋曲存

東家帝國大学文学部
阿波野竹垞(一八六六—一九四五)名は竹垞、字は台吉、佐賀の人、政治家。書道が外務省の時、マリア・ルース事件を号して、日本に帰る。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

43 蘇竹墨錄

小栗秋堂(一八六六—一九四五)名は秋堂、字は台吉、佐賀の人、政治家。書道が外務省の時、マリア・ルース事件を号して、日本に帰る。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

44 超然楼遺稿

木村操(一八六六—一九四五)名は操、字は台吉、佐賀の人、政治家。書道が外務省の時、マリア・ルース事件を号して、日本に帰る。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

45 蘇殿公最後遺稿

蘇殿公(一八六六—一九四五)名は蘇殿、字は台吉、佐賀の人、政治家。書道が外務省の時、マリア・ルース事件を号して、日本に帰る。この作は、大観、大観、大観、大観を臨書したため、頭上に「智階智果」とあり、三碑舞石、水木、竹、松、白雲、秋意の裏面、故園秋風五景書、交夏六月、写す茶園中、遊理。

46 西遊詩草
鈴木野軒 昭和六年（一九三二）
二冊 松竹堂刊
巻一、五、八、九、一〇

鈴木野軒（一七七一—一九六三）、名は健雄、約軒は新潟県の人、中国文学者、長兄雨山が開いた寿会に鈴木も数回参加している。この詩集は青木正児の漢文による跋文によれば、鈴木野軒が昭和二年（一九三二）五月二十八日から六月五日頃までに、京都から岡山、山口、広島と旅を、河野海蔵、石黒俊逸などと同行した。これは青木のほかに大谷一、阿部文彦として記している。

47 竹外翁遺集
歌島有竹 昭和九年（一九三〇）
巻一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇

歌島有竹（一八〇〇—一九八三）、名は純真、高島野舟の弟、日本画家、福岡藩士の家に生まれ、父より剣術を学び、二天流剣法書を受けた。また、村田蘭圃、石丸春生に師事して、南画を学ぶ。明治維新後は、大阪福山町のちのちで、大阪商売の重鎮として尊ばれた。これはその遺集で、雨山が題意、封面序を書いている。雨山は序の中で、「先生はいつも謙虚で、家人子弟はその情容を見たことがない。原文漢文」と記している。

48 碧翠先生画観
田辺蒼翠 昭和三年（一九二八）序
一冊 松竹堂刊
巻一、二、三、六、六、六

田辺蒼翠（一八六四—一九三二）、名は蒼翠、福中長庵の人、実業家、書画家、素行家に生まれ、第一回衆議院選挙に当選、政界でも活躍した。幼少の頃から南画に興味を持ち、実業界でも活躍し、晩年は画にも専じた。これはその画集で、雨山が序を書いている。今では祠堂においてまことに敬ぶよう。原文漢文」と記している。

49 一葉莊印賞
田辺蒼翠 大正二年（一九一三）
二冊 大谷院刊
巻一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇

田辺蒼翠（一八六四—一九三二）、名は蒼翠、豊後竹田の人、日本画家、初め画を習得するために学び、京都府神宮寺で田能村直人に南画を学ぶ。一九二二年、小室翠雲、山田介亭らと日本南画院を創立した。これは没後に編まれた画集で、雨山が序を書いている。その中で、「私は山田君と居居して南画を知り合うことより、深く、南画院を創設する私を断固に拒んでくれた。未だ二年にならず、逝つたのが腑に落ちる。原文漢文」と記している。

50 有竹斎藏鈔印
上野有竹 大正六年（一九一七）序
三冊 大谷院刊
巻一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇

上野有竹（一八四八—一九一九）、名は理二、丹後津山の人、実業家、藩校振興堂に学ぶ。明治三年、大阪の朝日新聞社に入社し、翌年から村田蘭圃と共に経営にあたり、大新聞社に育てられた。日本の美術品蒐集に力を入、その収集品多くは京都国立博物館、上野コロンネムとなつて、これは有竹の日本中期代筆の約一六割の複製印で、雨山がこれに雨山とに序を書いている。

51 真草千字文
小川真草 大正元年（一九一三）
一冊 大谷院刊
巻一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇

小川真草（一八七〇—一九二六）、名は真次郎、江戸本郷の人、実業家、小南校、東京大学の前身で学び、実業界で活躍、百十銀行行頭、取、阪神電氣軌道等を務めた。現在在国に出版されている「真草」真草千字文を所蔵し、一九二二年、京都の山田蘭圃、小林写真複製所のコロンタイプ印刷により影印出版した。これが、ある。雨山と親しく交わり、大正六年の西辰寿会に参加している。

52 華甲頌冊
庄田桂 昭和八年（一九三三）序
二冊 大谷院刊
巻一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇

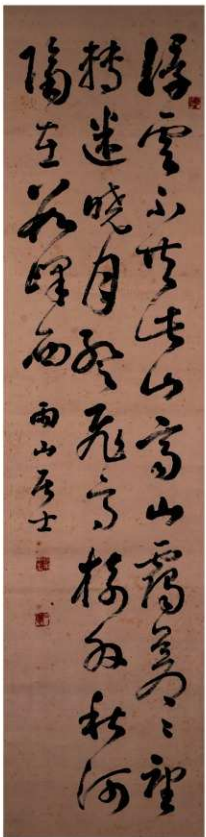
庄田桂（一八七三—一九四四）、名は乙吉、秋田阿仁の人、実業家、東京高等商業学校卒業後、紡織業界で活躍、東洋紡績社長を務めた。漢詩の修得を雨山にい、詩集多数を刊行している。これは、昭和八年、杜若の華甲頌冊である。詩集の同僚が作った詩歌書目録で、雨山の題と序がある。雨山は序の中で、「君が詩人を以て自許しないのは、その百世の志を詩に傾けて発しているのみだからであらう。原文漢文」と記している。

53 宝篋藏観
谷上隆介 大正二年（一九一三）
二冊 松竹堂刊
巻一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇

谷上隆介（生卒年未詳）、高島屋美術部長を務めた谷上は、大正一〇年〇月、真昌碩の展覧会開催のため、雨山の紹介状を持って真昌碩を上海に訪ねている。この時が谷上、中国古蹟の蒐集を始めた。三年間、宋明時代の真五十点を得て、真版観としてのがれて、雨山の封面と序がある。雨山は序の中で、観の本質論を展開し、観において尊ぶと云は、その材が精美であり、発黒が美しい」とある。原文漢文」と記している。

図版

作品解説と一部複製が異なり手す



1



2



16



19



20



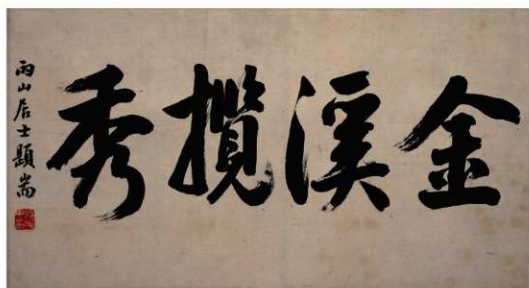
21



22



3



5



17



27



26



25



24



31



30



28



14



13



6



4



18



15



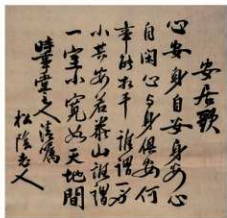
8



7



29



23



10



9



32



12



11



42



41



34



33



44



43



35



33



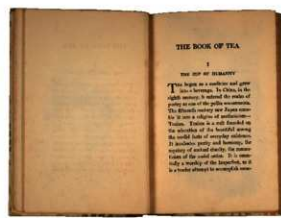
46



45



37



36



48



47



40



39



38



50



49



52



51



53

大妻女子大学博物館特別展

「長尾雨山とその交友―書画文墨趣味ネットワークの人々―」

図録制作 株式会社 研文社

発行日 二〇二五年二月二日 第二版

編集・発行 大妻女子大学博物館（東京都千代田区三番町二二 図書館棟地下1階）

展示図録『長尾雨山とその交友—書画文墨趣味ネットワークの人々』【第2版】正誤表

【箇所】

3 ページ 2 段目 資料番号 5 金溪真景図 解説

【誤】

赤松が大正一三年初夏（旧暦四月）、

【正】

赤松が大正一三年早春、

【箇所】

6 ページ 1 段目 資料番号 30 行草書自作詩軸 解説

【誤】

寒煙喬木荒村。

【正】

寒煙喬木似荒村。